

日本語と韓国語の複合動詞と類像性*

奥野 浩子

日本語にも韓国語にも、「動詞 + 動詞」という形態をとる複合動詞がある。複合動詞の派生方法については、日本語について、影山(1993)が「統語的複合語」と「語彙的複合語」という二つに分類している。塚本(1995、1997)は、「動詞の連用形 + 動詞」という形態上同一の複合動詞をもっていても、韓国語は日本語と違って統語的複合語は存在せず語彙的なものばかりであると論じている。

本稿では、複合動詞の派生方法の違いが、日本語と韓国語の言語体系にどのような差異をもたらしているかには立ち入らず、複合動詞を形成する二つの動詞の出現順序と意味を考察する。

合成される二つの動詞を前項動詞(V1)、後項動詞(V2)とし、それぞれの動詞が表す事象をE1、E2とすると、二つの事象の時間関係は、E1とE2が同時進行するか、E1がE2に先行するかのどちらかしかない。E2がE1に先行できない理由として、影山(1993)は、複合語の内部には時間関係を明示する形態を挿入できないことと、発話の直線性をあげている。さらに、由本(2005a)は、発話の直線性は普遍的に観察されることを日本語と英語の重文で例示し、時間関係を明示する表現を用いずに二つの事象を並列すると、発話の順序通りに事象の時間関係が解釈されるため、時間の流れに逆らった順番で発話する場合には時間関係を明示する必要があると述べている。そして、複合語では内部に時間関係を明示する要素を付加できないため、V1とV2の順序はおのずと決まり、これを言語における類像性(iconicity)と捉えられると論じている。複合動詞を構成する二つの動詞の順序に類像性があり、それが普遍的なものであるとすれば、日本語と韓国語でともに複合動詞で表すことができるもの¹は、二つの動詞の順序が同じはずである。たしかに、日本語と韓国語で二つの動詞の順序が同じものは見つかる²。

chaca-nayta (探し・出す)	ttwio-tulta (駆け・込む)
pata-tulita (受け・入れる)	pwulle-ilukhita (呼び・起こす)

ところが、日本語と韓国語でV1とV2の順序が反対になる場合がある。塚本(1993)は、日本語と韓国語の複合動詞の格支配パターンを中心に対照分析する中で、日韓の複合動詞のうち、V1とV2の順序が逆になるものは、意味的に一定のまとまりをなす、変化、交換・交替、修正の3種類で、すべて複合動詞が表す動作の前後では何らかの変化があるという点で共通していると述べている。

変化 (日)生まれ・変わる	(韓)pakkwie-thayenata(変わり・生まれる)
交換・交替 (日)着・替える	(韓)pakkwe-ipta/ kala-ipta ³ (替え・着る)
修正 (日)書き・直す	(韓)kochye-ssuta(直し・書く)

「生まれ変わる」・pakkwiethayenataのように 変化 とされているものは、「生まれる」・thayenataと「変わる」・pakkwitaという自動詞と自動詞の組み合わせである。格支配をみると、「生まれる」・thayenataは主格「～が」・「～ka/ i」をとり、「変わる」・pakkwitaは主格「～が」・「～ka/ i」の他に、変化後の状態を表す補語「～に」・「～(u)lo」と、随意的に変化前の状態を表す「～から」・「eyse」が生じることもある。この二つの動詞を組み合わせた複合動詞「生まれ変わる」・pakkwiethayenataは、前項動詞と後項動詞の両方の格体制を引き継いで、「～が」・「～ka/ i」と「～から」・「～eyse」と「～に」・「～(u)lo」の三つが生じる。

- (1)a. もし、私^が女^{から}男^に生まれ変わったとしたら・・・
 b. Manyak nay-ga yeca-eyse namca-lo pakkwie thayena-nta-myen・・・

主格はどのみち必要であるから、複合動詞になると、日本語では後項動詞「変わる」、韓国語では前項動詞pakkwitaが、複合動詞の格支配をしていることになる。格支配をする動詞は、位置は違うがどちらの言語でも変化を表すほうの動詞である。

「着替える」・pakkweipta/ kalaiptaのような 交換・交替 とされているものは、「着る」・iptaと「替える」・pakkwita/ kaltaという他動詞と他動詞の組み合わせである。「着る」・iptaはともに主格「～が」・「～ka/ i」と対格「～を」・「～lul/ ul」を必要とする。「替える」・pakkwita/ kaltaは主格と対格に加えて、交替の前後の対象を「～から」・「～eyse」と「～に」・「～(u)lo」で表すことができる。複合動詞「着替える」・pakkweipta/ kalaiptaの場合も、上の 変化 の場合と同様、前項動詞と後項動詞の両方の格体制を引き継いで、「～が」・「～ka/ i」、「～を」・「～(l)ul」、「～から」・「～eyse」、「～に」・「～(u)lo」の四つを具現化させることができる⁴。

- (2)a. ミジョン^が服^を着た。
 b. ミジョン^が服^を替えた。
 c. ミジョン^が服^を半袖^{から}長袖^に着替えた。
 d. Miceng-i os-ul ipessta.
 e. Miceng-i os-ul pakkwessta.
 f. Miceng-i os-ul pansomay-eyse kin somay-lo pakkweipessta/ kakaipessta.

主格と対格は二つの動詞に共通しているの、結局は、日本語では後項動詞「替える」が、韓国語では前項動詞pakkwita/ kaltaが複合動詞の格支配をしているとみなすことができる。ここでも、格支配をする動詞は、位置は違うが変化を表すほうの動詞である。

「書き直す」のような 修正 も、 交換・交替 の場合と同様、「書く」・ssutaと「直す」・kochita という他動詞と他動詞の組み合わせである。格体制も全く同じで、「書く」・ssutaは主格と対格を要求し、「直す」・kochitaは主格と対格に加えて、「～から」・「～eyse」と「～に」・「～(u)lo」の四つをとることができる。

- (3)a. ヨンウ が 原稿 を 書いた。
 b. ヨンウ が 原稿 を 直した。
 c. ヨンウ が 原稿 を 韓国語 から 英語 に 書き直した。
 d. Yengwu-ga wenko-lul ssessta.
 e. Yengwu-ga wenko-lul kochyesta.
 f. Yengwu-ga wenko-lul hangwuko-eyse yenge-lo kochessessta.

上の 交換・交替 の場合と全く同じで、日本語では後項動詞「直す」が、韓国語では前項動詞kochita が複合動詞の格支配をしていて、位置の違いはあるが変化を表すほうの動詞が格支配をしている。

日本語と韓国語の複合動詞の、二つの動詞の順序が反対の三つの場合、格支配は、日本語では後項動詞が、韓国語では前項動詞が担うが、両方とも「変化」を表す動詞である。

意味の面では、塚本が指摘するように 変化 複合動詞も 交換・交替 複合動詞も 修正 複合動詞も、何かが「かわった」ことを表す。由本(2005a)は、日本語の「V+かえる(変える、換える、替える)」という複合動詞の意味について、前項動詞が手段あるいは様態・付帯状況を表すとしている。由本(2005b)では、もう少し具体的に、「V+かえる」の意味の本質は、「V1が含意する結果状態に含まれる何かを別のモノや状態にかえること」であると規定している。たとえば、「乗り換える」では、「乗る」が含意する結果状態に含まれる「場所」をかえることであると述べている。また、「V+直す」について、由本(2005a)は、統語部門で形成されることは間違いがないが、複合語全体の項構造や選択素性を見ると、きわめて語彙的複合動詞に近い性質を示すと述べている。統語的複合語は補文構造を仮定するので、「書き直す」は「書くことを直す」、ただしここでの「直す」は「もう一度やる」という意味で、もう一度同じ行為を繰り返して別のものに変えることを表すと考えられる。複合語形成がどの部門で行われるにしても、二つの動詞の順序に類似性を認めるとすると、日本語と韓国語では反対の順序で捉えられていることになる。「着替える」は、日本語では「着て(服を)替える」ことを、韓国語では「(服を)替えて着る」ことを表す。要するに、「替えた」と捉えるのか「着た」と捉えるのかという違いがあることになる。「書き直す」は、日本語では「もう一度書いて別のものにする」ことを、韓国語では「別のものを書く」と捉えていることになる。このような違いを反映していると思われるのが、次に述べるインフォーマントチェックの結果である。

複合動詞「V+かえる」を含む「～をAからBにV+かえる」という文から、「V+かえた～」がAとBのどちらを表すかを23人の学生にチェックしてもらったところ、判断にばらつきが見られた。チェックしてもらったのは次の6文である。

- (4)a. 服をAからBに着替える。 「着替えた服」はAかBか？
 b. 電車をAからBに乗り換える。 「乗り換えた電車」はAかBか？
 c. 原稿をAからBに書き換える。 「書き換えた原稿」はAかBか？
 d. 家をAからBに建て替える。 「建て替えた家」はAかBか？
 e. 色をAからBに塗り替える。 「塗り替えた色」はAかBか？
 f. 食器をAからBに入れ替える。 「入れ替えた食器」はAかBか？

一貫してAと答えたのは3人で、一貫してBと答えたのが11人であった。あとの9人はAとBが混在する答えであった。23人の回答をまとめると次のようになる。

	A	B
着替えた服	3	20
乗り換えた電車	3	20
書き換えた原稿	5	18
建て替えた家	8	15
塗り替えた色	6	17
入れ替えた食器	7	16

このばらつきは、日本語では「V + かえる」は「かえた」と捉えるので、「かえたもの」は交換の前のものも後のものも表すことができるということだと思われる。「かえた」後のものを表すという判断が多いのは、変化の後に残る結果に焦点が当てられやすいためと思われる。この6文のすべてではないが、いくつかを韓国語で示して数人の韓国人にチェックしてもらったところ、全員が迷わず一貫してBという答えをした。韓国語では、日本語と反対で「かえる + V」の順序になるので「Vした」ことになり、そのVが表す行為の結果として残る対象物を表すという解釈になるとと思われる。

以上をまとめると、日本語では後項動詞が格支配をして意味的な中心語にもなっているが、韓国語では前項動詞が格支配をするが、意味的な中心語は後項動詞であるといえる。複合動詞が類像性を反映しているとすると、二つの動詞を組み合わせて一つの動詞とするときに、結局は「何をする」とみるのが日本語と韓国語で違っていると考えることができる。事象の捉え方に違いはあっても、それを言葉に移すときに類像性をもつという点では、二つの言語に違いはない。

調べてみると、この他にも日韓の複合動詞を構成する二つの動詞の順序が入れ替わる場合がある。「見る」・potaを含む場合である。日本語では「見守る」のように前項動詞が「見る」であるが、韓国語では「見る」に対応するpotaが後項動詞として生じる。

- (日) 見・守る (韓) cikhye-pota (守り・見る)
 (日) 見・比べる (韓) pikyohay-pota (比較し・見る)
 (日) 見・回す (韓) twulle-pota (回し・見る)

(日) 見・回る	(韓) tola-pota (回り・見る)
(日) 見・下ろす / 見・下げる	(韓) naylye-pota (下ろし・見る)
(日) 見・上げる	(韓) ollyeta-pota (上げ・見る)
(日) 見・向く	(韓) tolata-pota (回転し・見る)
(日) 見・返す	(韓) twitola-pota (後ろを向き・見る)

「見ながら守る」のか「守りながら見る」のか、また、「見て比べる」のか「比べながら見る」のか、二つの動詞の出現順序が、二つの事象の時間関係の捉え方を反映しているとする、この差はどこから生じたのだろうか。二つの言語のほかのところにも見られることだろうか。これは今後の課題である。

「見回す」・twullepota、「見下ろす」・naylyepota、「見上げる」・ollyetapotaのように、方向を含む動詞を含む複合動詞の場合、韓国語では方向を含む動詞が前項動詞になるようである。

打ち下ろす naylye-chita (下ろし・打つ)

撃ち下ろす naylye-ssota (下ろし・撃つ)

日本語では複合動詞にはならないが、次のような韓国語の複合動詞の形態でも、方向を表す動詞が前項動詞として生じている。

naylye-ota (下りて来る)

naylye-nohta (下に置く)

naylye-kusta (上から下に線を引く)

olla-kata (上がって行く)

olla-ota (上がって来る)

韓国語では、方向を意味に含む動詞が複合動詞の前項動詞として出現しやすいということかもしれないが、他に、どのような意味要素があれば前項動詞として出現しやすいかを明らかにすることは今後の課題である。また、日本語の二つの動詞からなる複合動詞の形態は「動詞の連用形 + 動詞」であるが、李ほか(2004)では、韓国語には「動詞の活用形 + 動詞」と「動詞語幹 + 動詞」の形態があるということである。「動詞 + 動詞」の複合動詞の形態に二種類あるとしたら、それぞれの形態がどのような特徴をもっているのかを追究することも今後の課題である。

注

*本稿では、「韓国語」という名称を用いて「朝鮮語」という名称は用いない。

1 金(2006)は、日本語では複合動詞で表されるものが、韓国語では分離され二つ(あるいはそれ以上)の品詞となり、

その訳手順も変えなければならないと述べ、日本語表現は結合的集中性を好み、韓国語表現は分散性を好むと特徴付けている。したがって、日本語の複合動詞が韓国語でも複合動詞で表されるとは限らない。

- 2 韓国語のローマ字表記はYale式に従う。
- 3 韓国語では、日本語の「かえる」に相当する語はpakkwutaとkaltaの二つがある。
- 4 塚本(1993)は、「替える」とpakkwutaに関して、変化前の状態を表す補語「～から」・～eyseが登場する時は通常、それが対象を表す補語「～を」・～(l)ulに取って代わらなければならない、その両方が出現することは不可能であると述べているが、例に挙げたように、両方が出現することは可能である。両方が出現する場合には、「～を」・(l)ulがつく名詞句は「～から」・～eyseと「～に」・(u)loにつく名詞句の上位語でなければならない。

参考文献

- 李翊燮・李相億・蔡琬(2004)(前田真彦 訳)『韓国語概説』、大修館。
- 影山太郎(1993)『文法と語形成』、ひつじ書房。
- 金元美(2006)「日・韓表現構造の対照考察 複合動詞における集中性と分散性を中心に」、『日本言語文化』第9輯、pp.47-66。
- 塚本秀樹(1993)「複合動詞と格支配 日本語と朝鮮語の対照研究」、仁田義雄(編)『日本語の格をめぐる』、pp.225-246、くろしお出版。
- _____ (1995)「膠着言語と複合構造 特に日本語と朝鮮語の場合」、仁田義雄(編)『複文の研究(上)』、pp.63-85、くろしお出版。
- _____ (1997)「語彙的な語形成と統語的な語形成 日本語と朝鮮語の対照研究」、『日本語と朝鮮語(下)』、pp.191-212、国立国語研究所。
- 由本陽子(2005a)『複合動詞・派生動詞の意味と統語 モジュール形態論からみた日英語の動詞形成』、ひつじ書房。
- _____ (2005b)「¹V+かえる」と¹V+直すの意味と統語」、『日本語文法』5巻2号、pp.110-127、日本語文法学会。
- _____ (2008)「複合動詞における項の具現 統語的複合と語彙的複合の差異」、影山太郎(編)『レキシコンフォーラム』No.4、pp.1-30、ひつじ書房。